九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

# 규대人：九州大学韓国人研究者紹介

姜，益俊
九州大学留学生センター ： 准教授

https://doi.org/10.15017/2004988

出版情報：韓国研究センター年報. 17, pp.3-5, 2017-03-31. Research Center for Korean Studies, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

규대人：

# 九州大学韓国人研究者紹介

聞き手：冨樫　あゆみ（九州大学韓国研究センター特任助教）

## 姜益俊（カン・イッジュン）准教授

**プロフィール**
留学生センター准教授。
博士（農学）。専門は環境毒性学。行動毒性学。
担当科目に、「九大生よ、ビジネスを学ぼう」、「問題解決の科学」など。
主要著書に、姜　益俊・松尾正弘（2015）「社会人になる前に読んでおきたい！ビジネスコミュニケーション」, 九州大学出版会など多数。

### 九州大学との縁、専門について

――まずは御専門についてお伺いしてもよろしいでしょうか？

姜　僕は、簡単に言うとメダカが専門です。

――メダカですか

姜　メダカを使って環境汚染を調べる、生態毒性学を専門としています。この生態毒性学を学ぶために九大に来ました。

――では大学院から九大にいらしたのですね。

姜　九州大学農学研究院で修士、博士学位を取得しました。分野としては水産になります。

――生態毒性学に興味をお持ちになった経緯についてお伺いしてもよろしいでしょうか？

姜　私が農学研究院修士課程に入学したのは20年ほど前ですが、その当時、環境ホルモンが注目を浴びていまして研究が盛んに行われていました。その頃に大学院に進学しました。

――環境ホルモンは農学部の分野なのですね。

姜　そうです。農学研究院には汚染や毒性を調べる研究室がありました。配属された研究室でメダカをつかって実験をしたいと思ったのがきっかけです。

――メダカを使って研究室で実験されているのですか？

姜　絶滅危惧種なので、河川にいるメダカを使って実験してはいけないことになっています。突然変異のメダカを継代飼育し、均一した条件で実験を行っています。ある特定の物質が生態系にはどう影響するのか調べることによって、リスクがわかるようになります。そのリスクが先々人間にも影響するという推測可能になる。そのための研究が一番のベースとなっています。

――とても社会的にも意義がある御研究をされているのですね。先生は、九大・福岡にはもう20年ぐらいいらっしゃるということなのですが、どのような経緯で日本にいらっしゃったのですか？もともとご出身は韓国でいらっしゃいますよね？

姜　韓国です。ちょうど軍事政権が終わった時期に高校を卒業しまして、まだまだ社会が落ち着いていない状態でした。当時、韓国でも環境

飼育中のメダカと姜准教授

汚染が深刻な社会問題となっていました。飲み水をきれいにしたい、そういう研究がしたいという気持ちがありました。環境汚染の研究について、日本の方が進んでいる、日本で研究をしたいということで九州大学へ進学しました。

――もともと日本自体に興味をお持ちであったというよりは、研究したい分野が日本で進んでいたからという理由で日本にいらっしゃった？

姜　いや、それは両方あります。日本を知りたいというのもあり大学1年の時にＹＭＣＡを通して日本語研修のために神戸に来ました。１ヵ月程度の神戸滞在中、２週間のホームステイを経験したのですが、ホストファミリーが素晴らしい人格者でした。その経験が今の私の原点となっています。韓国に帰ってきたときに、純粋に神戸のホストファミリーにまた会いたい、日本に行きたい、日本で研究したいというのがありました。やはり人とのつながりが大切だと思います。日本での大学院を探す過程で、韓国にも近く、研究分野も重なるという理由から九州大学の研究室に入りました。

## 韓国人留学生と九州大学

姜　冨樫先生は韓国の研究者との交流もたくさんされているのですか？

――ソウル大学で博士課程を修了したのですが、私の研究のルーツは韓国にあると思いますし、韓国にいる研究者、先生とは連絡を取り合っています。先生が院生でいらっしゃった当時、韓国人留学生はどれくらいいたのでしょうか？

姜：私が院生として九州大学に在籍していた時は100人程度、今は200人以上いると思います。九大にきて韓国人が珍しく思われなかったのが、良かったと思いますが、やはり先輩方がいたからというのがあると思います。研究者の場合、自分の研究に合っているから九州大学にいらっしゃると思いますが、私の場合は、院生から自分のやりたい研究ができたというのが強かったと思います。

## 韓国人研究者からみた九州大学

――姜先生は、韓国人研究者からみた九州大学とはどういった印象をお持ちでしょうか？

姜　私は、研究者として九州大学にきたわけではないので、卒業生という立場で九州大学を見ています。ですが、海外からの視点でお話すると、国際化している国立大学という印象でしょうか。

――外国人、韓国人研究者からみて九大の改善点など気づいた点はありますか？

姜　九州大学は、国際化していると申しましたが、実はもっと国際化してほしいところも多々あります。もう少し九大が置かれている立ち位置、大事なポジションにいるという事を全面に出す必要があるのではないかと思います。

――それは地理的な意味でということですか？

姜　そうです。アジアの周辺国において知名度が高い九州大学という名前をもっとアピールして研究や、国際交流を行っていく必要があると思います。それから、もっと広く考えてみると、アジアの中にいるという意識をもって、それを有効的に生かそうとする意欲が必要だと思います。

――アジアとの関係でもっと積極的に国際化を図るべきだと。

姜　そうです。現在、時代は変化していて、韓国だけでなく中国・香港・台湾は積極的に国際化、国際交流を進めています。九州大学もそのような国々とより積極的に国際交流を進めていくべきだと思います。特に若い学生や研究者と

の間での交流を強化すべきと思います。その交流も戦略をもって、テーマをもって、一つひとつ進めていくことが大事と思っています。

――いろんな協定校がありますけど、それを積極的に生かしていくということが大切ですよね。韓国研究センターも、アジア太平洋カレッジを中心として学生交流を積極的に行っていますけれども、研究の面でも、様々な国から研究者を招へいして研究交流を行う必要があるのかもしれませんね。韓国だけでなく、日中韓や、日韓台などの合同研究を進めていくうえで一番いい位置に九州大学があるのは確かだと思います。

姜　私もそう思います。

## 日韓関係と九州大学韓国研究センターの役割

――日韓関係というのは波があるような気がします。政治的な意味だけではなく、市民レベルでも熱かったり、冷めたりという差が激しいような気がするのですが、その点いかがお考えですか。

姜　根拠のない感情が両国にはあると思いますが、それはお互いを知らないということが大きいような気がします。

――ネットが発達して、そこから触れる情報実際は表面上のことなのに、すべてだと思い込んでしまうということはありますよね。

姜　それを解決するには、大学の教育者として、両国の交流を積極的に行うことしかないと思っています。

――学生交流を積極的に行うと。

姜　若い人を。それしかないと思います。現場からできることは、交流の場を作り、とにかくお互いを知るきっかけをつくる。そして、継続的に往復させる努力が必要だと思います。つまり、きっかけをつくる努力、参加する努力、継続させる努力。そういった努力です。私が韓国研究センターに期待するところはまさにこういうところです。

――交流の要という部分ですか？

研究室にて

姜　何のために交流するのかという、交流の目的を明確することが重要だと思います。韓国研究センターといえば、韓国について研究されて、よく知っていらっしゃるセンターですよね。韓国から見ても日本の中で一番つなぎとなる部分だと思います。ですので、韓国研究センターがリーダーシップをとり、他のセンターとも積極的に関わりながら交流を行っていってほしいと思います。

――学内外の様々な部署と連携していくのも大切な考えですよね。先生も、釜慶大学との学生交流プログラムを行っていらっしゃいますが、どのような点に重点を置かれているのでしょうか？

姜　意識改革ですね。韓国人は日本人のような緻密さが足りない。日本人は韓国人のような早い判断力が足りない。その二点を補うことを目的としています。

――お互いの考えを吸収できるような人材の育成に力を入れていらっしゃるのですね。

姜　もう一つ、地元に基盤を持ちつつ交流を推進することが大切だと思います。九州大学がある福岡という地域的特性を生かしつつ、同時に地元に根付いた交流を行っていけば、より輝くと思います。

――貴重なご意見ありがとうございます。

インタビュー日：2016年12月13日
場所：九州大学留学生センター
姜益俊准教授研究室